



上/本間の担当工区。
下/堀井所長に進捗状況を報告する本間。

人生を変える出会い

「地元の高等専門学校で化学の学科を志望したのですが、希望した学科に入れず環境都市工学科に入学して土木について勉強し始めました。正直、授業に興味を持ってなくて成績もあまりいいほうではありませんでした」
興味を持ってない分野の授業よりも部活動に明

高等専門学校で当初の希望とは違うカタチで土木を学び始めた今号の小町。偶然参加したインターンシップで人々の暮らしを便利にする土木の魅力やコンクリートの面白さを知り、土木技術者になると決意した。

「インターンシップでは、私の住む町から空港までの道路を整備する計画の説明を受けました。私の町は道路整備があまり進んでおらず、空港に行くまで約一時間かかっていたのですが、その道路が完成すると二〇分で行けるようになるというものでした。ものすごく画期的で『土木は人の生活をこんなにも変えることができるんだ』と感銘を受けました」

け暮れる毎日で、なかなか勉強に身が入らなかった本間は、四年生の時、札幌に住む姉のもとへ遊びに行くついでに軽い気持ちで建設コンサルタント会社のインターンシップに参加した。そこで、土木に対する価値観を大きく変える出来事がある。

土木が自分の身近な場所に直接関わってきたことで、その仕事の意義を肌で感じるようになった。本間の気持ちが一八〇度変わった瞬間があった。

「インターンシップでは、コンクリートの橋梁の専門家の方がコンクリートについて熱心に教えてくださいました。その話を聞いて、私もコンクリートで人に役立つ物をつくってみたいという気持ちが湧いてきたんです」
学校の授業では知ることができなかったことをインターンシップで発見できた。本間はこれをインターンシップを境に土木技術者になりたいと強く思うようになっていった。

「私の祖父が建設会社で働いていた頃、瀬戸大橋の施工に携わっていたと聞きました。小さい頃からその話は聞いていましたが、あまり気に留めていませんでした。でも、インターンシップを終えた後は祖父の話をもっと聞きたくなりました。『おじいちゃん、どんな橋をつくったの？詳しく教えて！』って」

インターンシップでの経験や祖父の話が相まって、就職活動の際は「コンクリートの橋をつくりたい」と先生に相談した本間。先生からいくつか紹介してもらった会社の中から選んだのがオリエンタル白石(株)であった。

憧れの女性技術者

オリエンタル白石(株)に二〇一四年に入社した

3月21日 41723 時間

平成 年 月 日起算
平成29年 3月21日現在

ワイヤーロープ使用禁止基準

ワイヤロープは、作業前によく点検し、次の場合は使用禁止すること。

素線の断線	1より層において素線の数の10%以上が断線しているもの	X
摩耗	直径の減少が公称径の7%以上のもの	X
キンク	キンクしたもの	X
形	著しく形くずれ及び損傷・腐食のあるもの	X
	さつま差しのほぐれているもの 圧縮止めつけ根の部分のワイヤロープのいたんでいるもの	X



輝け! けんせつ小町

現場監督

本間美湖

オリエンタル白石(株) 東京支店
高速横浜環状北西線港北地区
下部・基礎工事 港北作業所



「けんせつ小町」は、
日建連が定めた建設業で
活躍する女性の愛称です。

玉掛ワイヤロープ

点検色

my Beginning

私が建設業界に入った理由

人の暮らしを大きく動かせる

my Growing

私が建設業界で学んだこと

数々の出会いから働き方を学ぶ



本間が最初に配属されたのは、東京都のポンプ所建設工事であった。

「当社はポンプ所の器となる構造物をニューマチックケーソン工法で沈設させる工事を担当していたのですが、工事全体の統括を担当していた元請の女性技術者の方が気にかけてくださったことが励みになりました。初めて会った時に『これからいろいろあるだろうけど頑張っていこう』と声を掛けていただいたところから始まり、現場で働くうえで心構えを教えていただいたり、食事に連れて行ってもらったり、誕生日プレゼントをいただいたこともありました。その方は半年ほどで本社へ異動してしまいましたが、働き方や気配りの仕方など多くのことを教わりました」

会社の枠を越えて親身に接してくれる人がいることで安心感が生まれ、働きやすい環境だったと本間は語る。

「当社の本社技術本部で技術開発業務に携わっている先輩も私にとっても大きな存在です。技術士の資格を持っていて現場経験もある方なので、仕事の悩みを相談したり経験談を教えてもらったりして勉強しています」

社内の女性技術者を対象とした企画で知り合ったその先輩は、結婚、出産というライフイベントを経て、子育てと仕事を両立している技術者であり、本間にとって憧れの存在となっている。

納得できる仕事をする

昨年より神奈川県の高速横浜環状北西線港北ジャンクションの橋脚下部工事現場へ配属となった本間は、橋脚の基礎を計一基つくる現場で最も大きい基礎を担当している。

「私が担当している橋脚基礎は計五、八〇〇立方メートルのコンクリートを打設するとても大きいもので、三月末に一、二〇〇立方メートルを打設しました。うまく仕上がったのですが、自分の中では段取りなど少し納得いかない部分もありました。七月には、四、六〇〇立方メートルを打設します。打設は二昼夜連続で行い、ミキサー車が延べ約一、一〇〇台来るので、スケジュールや品質管理がとても重要です。順調な打設に向け、念入りに計画を立てています」

本間は今年で入社四年目、まだ二現場目であるが、周囲が寄せる期待は大きく現場の要所を任せられている。

「前の現場で学んできたからだと思うのですが、本間は若手のなかで誰よりも安全に対する意識が高い。安全看板を率先してつくり、現場に設置したりするんです。また、仕事を翌日に回さず、手際よくその日のうちにこなす。気が配りができ、確実に仕事をこなすので非常に優秀で信頼しています。今、本間が担当している橋脚の基礎は大変大きく、三〇年間現場にいる私もここまでの打設は経験したことがありません。

my style

小さい頃からバレーボールをしており、運動や体を動かすことが好きです。最近は近所の日産スタジアムまでジョギングやウォーキングをしています。お気に入りのウェアと新しいシューズで走って汗をかいたり、景色を見ながらゆっくり散歩するといい気分転換になります。



「仕事終わりに現場の上司と一緒に走ることもあります」

上/工事事務所の皆さん。本間の左隣が堀井所長。
下/本間が製作した安全看板。





3月に打設したコンクリートの出来形測定をする本間。

profile



ほんま・みこ●1994(平成6)年、北海道生まれ。工業高等専門学校の環境都市工学科に進学。学生時代に参加したインターンシップがきっかけで土木の道へ進むことを決意。2014(平成26)年、オリエンタル白石(株)に入社。千住関屋ケーソン工事に約2年間従事した後、2016(平成28)年3月より高速横浜環状北西線港北地区下部・基礎工事に配属され、今に至る。

スケールが大きく段取りは難しいですが、だからこそ本間に任せました」

この現場の堀井所長はこう話す。

「インターンシップの時から本当にいい出会いの連続で今に至っています。定年まで現場に出続けるのは難しいかもしれませんが、当社には実際に両立している女性の技術者もいるので、先輩に負けないよう働き続けていきたいと思えます」

思いもよらぬカタチで土木を学び始めたが、インターンシップをきっかけにその世界が大きく変わった本間。様々な人に出会い、想いや考えを知り、日々この仕事の面白さを発見している本間の目は輝いていた。まわりへの丁寧な配り、仕事を確実にこなす姿が後輩から憧れの存在と言われる日は遠くないだろう。

my **Growing** 私が建設業界で学んだこと